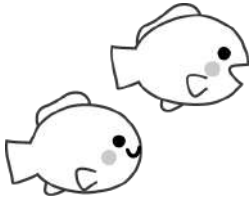


## 所沢市民放射線測定室「とこらぼ」ニュースレター2023年8月

発行:とこらぼ運営委員会

メールアドレス [tokolabo2013@gmail.com](mailto:tokolabo2013@gmail.com) ホームページ <http://children-foundation-t.jimdo.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/tokorozwahousyasensokuteijo>



いつもとこらぼにご支援いただき、ありがとうございます。  
観光地に人混みが戻り、お祭りの音が3年ぶりに帰ってくる夏になりました。しかし、この3年間の様々な施策に対しての総括は行われることなく、ずるずると日常に引き戻される感じは、12年前の事故の時と変わりません。事実をしっかり刻んでいくことを通して、起きたことを教訓に変える選択肢を、提示し続けたいと思います。今後もお力添えをよろしくお願いいたします。



### 【とこらぼのつぶやき】

3月のとこらぼまつりで小豆川先生の講演を聞きショックを受けました。

それは、福島第一原発から出た汚染水をALPSで浄化処理し海洋放出するにあたり、先生はクロスチェックを東京電力に何度も申し入れているがメリットが無いからと断られているという話を聞いたからです。

メリットの有無という意味では、第三者機関がクロスチェックして東京電力との測定結果に大きな差がない事をメディアに公表し続ける方が企業イメージも良いのではないのでしょうか。

先日、汚染水を海洋放出する計画に関して、IAEAからお墨付きのニュースを見ました。

国際的な安全基準に合致し、人体や環境に与える影響はごくわずかとのことです。

その際に見せた岸田総理の満面の笑みを見た時に何とも言えない違和感を覚えました。

韓国政府からの視察団受け入れなど、外国へ向けた情報発信は積極的に行うべきだと思います。

輸入規制なども未だにあり、規制が解除されれば景気にも好影響があると思われるからです。

しかし、地元住民や国内への説明が十分に行われているのでしょうか。

ニュース映像に違和感を覚えたのはまさにそこでした。一番大事な地元住民、特に漁業関係者の理解を得る前に、なぜ笑っていられるのでしょうか。その神経を疑ったからです。

「IAEAのお墨付きをもらったら準備は全て整った」と考えているのですが、「地元住民の理解なくして、海洋放出はしない」と言っていたのは政府ではなかったでしょうか。

それなのに、放出開始時期だけは今夏と決まっているのは何故でしょうか。

そもそも、トリチウムは世界各国の原発からも出ていて海に流しているそうです。

当然ながら直接核燃料に触れたものではありません。しかし福島原発の汚染水は、熔け落ちた核燃料に冷却水や地下水が触れているので、汚染のレベルがまるで違うのだそうです。

莫大な税金を投入して経営しているので、国営企業とも言えるわけで、それはつまり国民の財産です。私たちには測定できる権利が有るのではないのでしょうか。

外国のメディアでは東電よりも、NPOが海水を測定した値を見ているとか…

国民・政府・東電がお互いに信頼関係を築けるようになるにはどうすれば良いのでしょうか。

一番大事なところが抜けてはいないのでしょうか

## 【公開測定：名探偵コナン並みかも ～謎に包まれた木灰の巻～】

事件と言うわけではありませんが、謎に包まれた測定に関わる事がありました。「3.11 前の木灰があるので測って欲しい」という依頼が舞い込みました。こちらとしても、好奇心をそそられる願ってもない測定に飛びつきました。

測定結果は事故前ですから事故後より低い値が出て当然と思いきや、意に反して事故後と同程度あるいはそれ以上の数値が検出されました。

一体どうなってんの謎・謎・???



そこで、今回も小豆川勝見先生(東京大学院の研究室で測定)をお願いして、測定してもらうことになりました。ゲルマニウム半導体という測定器にかけると、セシウム 137 とセシウム 134 の割合が分かります。そこから割り出すことで、この木灰は福島原発由来のセシウムであることが解明されました。こんな風に放射線測定は、福島由来なのか、もっと前のチェルノブイリ原発事故や核実験由来なのかということも分かってしまうのです。

ほーら、名探偵コナン並みの謎解きだったでしょ!!

## 【いきなりやって来た除染土実証実験と小豆川先生の連載がリンクして】

2022年12月8日まで、あの黒い袋の山は現実的ではなかった。除染土が詰められていることはわかってきたが、あの膨大な数のフレコンバックの山が今どうなっているのか、袋の中はどうなっているのか。あの場所にずっとあり続けるのかとぼんやり考えていた。

ところが、あの“除染土が所沢に持ちこまれる”というニュースが突然降ってきた。驚いた。なぜなら持ち込まれた場所が私にとってとてもなじみ深い地域で散歩の道筋でもあったからだ。突然現実になった。〈ひとごと〉ではなくなった。

それで「とらぼ通信」の小豆川先生の連載を改めて読んでみた。人間が原子炉の中で作り出してしまった放射性物質のうち、放射性セシウムに限っていえば(ほかにもあるが)「フレコン 100 袋分の土壌にやっとな塩 1 粒分の重さに到達するレベルの量が含まれる。」「ごく微量でも人がその土地に帰ることができないくらいに酷く汚染させてしまう。それだけわずかな量であっても土壌を回収しなければならぬのは放出される放射線の力が強く人体への影響が危惧されるから。」だから施設の中で厳重に管理しなくてはならない。中間貯蔵地に集められた 2000 万袋とも言われる汚染土壌の中からどのようにして放射性物質を探し出すのだろうか。さらに現在の科学力では汚染された土壌を引き剥がすしか対処できないという。そしてその土の中から危険なセシウムだけを取り出すことはできないのだとか。気の遠くなるような話だ。

空気汚染、汚染水についても同じように膨大な問題が山積しているんだろうなと想像する。「危なそうなものは、すべて双葉町と大熊町にという考えが根底にあるのでは、結局 〈ひとごと〉なんだ」という地元の声も聞こえる。科学的な安全性の観点から管理の大切さは承知しているが、それと同時に地元の人々の様々な思いにも耳を傾けたいと思う。

2011/3/11 の大地震、翌々日の福島第 1 原発の水素爆発の白い煙が上がった時がすべての始まりであったのだと今になってわかる。取り返しのつかない永久的な負債の始まり。この負債を次世代に残すことになる。まだ何も解決していない。正しい知識を得て行動していきたい。

小豆川先生の連載、講義、授業はとてもわかりやすく目を開かされます。1人でも多くの人、子どもたちにも知ってもらいたいのでこれらの企画が続くことを願っています。(とらぼ会員 小幡美津子)

## 【とらぼ利用者の声】 小舟明子さん(飯能市在住)

昔はチェルノブイリの子も達を呼ぶ会、最近ではエクアドルの子ども達支援の「サネの会」のお手伝い。選挙の時は「れいわ新選組」のボランティアなどをしています。

12年前の3月11日、とうとう原発事故がおこってしまった。東京駅や羽田空港はいち早く非難する黒塗りの高級車でいっぱいだったらしい。それとは引き換えに私たち庶民は「ただちに影響はない」の連呼がテレビから流れ続けて、それをうのみにしたものは相当被ばくしていると思われる。「ただちに」とは「のちに」ということなのに…

私はといえば情けは人の為ならずということなのか、チェルノブイリの子も達を呼ぶ会を手伝ったり、脱原発運動をしている友人からの情報で被ばくがどういふものか認識できていた。そして、アメリカの出している原発事故が起きた時のマニュアルも、持っていた。

その時までは日本にも原発近くの自治体には、マニュアルは配られているはずだとおもっていたが、それはなかった。ヨードを子どもたちに飲ませることもなかったことにつづく無政府状態のこの国を思い知ることになった。

自分の命は自分で守らないと…パートナーの音楽仲間にも動力炉・核燃料開発事業団に勤めていた人がいるので様子を聞いたり、そのマニュアルに従って、被ばくを回避した。のちに、病院のレントゲンフィルムが、ちゃんとそれ用のケースに入っているにも関わらず、感光したらしいという情報を聞いて、アメリカのマニュアルのなかで、隙間をガムテープでふさぐというものは無意味だったとわかったのだけれども。まあ、うちは隙間だらけなので、はなからあきらめて、やらなかったのですが、放射能、恐るべしです。

それから、まずしないとならないと思ったのは、汚染していない水とお米を確保すること。水はアレクセイの泉という映画にあったので地下水がしばらく大丈夫だろうと、温泉水を汲んできている。温泉水は事業所が成分を調べにだしているので相当低い測定値であった。

お米は、長野の友達に作ってもらっているのだけれども測定に出して幸いにも被ばくがないのがわかって、それ以来ずっとお世話になっている。次に、ここ飯能の自宅の土を「とらぼ」さんに測定していただいた。当初123ベクレル/kgだったのだが、半減期をすぎて60ベクレル/kgになった。そういう土なんだと認識しながら爪の間に極力はいらぬように、庭いじりができるようにもなった。

いただいた大根、いただいたキウイ・野菜も「とらぼ」と福生の「木を植えるれすとらんオーロラ」で測定していただいた。測定して汚染していないものを提供してくれる福生の「木を植えるれすとらんオーロラ」は、今ではレアなレストランです。3.11以後そういうお店が増えるだろうと期待していたのだけれども、一般庶民は喉元過ぎればなかったことになってしまったようだ。そういう被ばく回避のレストランは増えることもなく、今に至っている。残念なことに、測定機器を、あまり使うことがなくなったからか、最近測定器が作動しなくなって、オーロラには、測定を頼むことができなくなった。

それなので、なおさら、これから、とらぼさんには頑張ってもらいたいと思っています。被ばくしているこの地で暮らすときめたので、12年間ずっと内部被ばく回避の努力は続けています。そのためには私にとって、測定所はとてありがたい存在なのです。当初5ベクレル/kgくらいあった果物も測定できないくらいになってきたり、土が被ばくしたままでも野菜からは出ないということに、ほっとすることもできた。いただきものもありがたくもらうこともできるようになった。目に見えない放射性物質を、どこにどのくらいあって、どういふものが取り込みやすいか、測定所がいろいろなものを測定してくださったからこそ、認識することができたのです。そして何より、測定しているんだというのは、多く被ばくしているものを安易に流通させないという抑止にもなるはず。事故当初はもちろんのこと、これからも、大切な役目ですね。これからも、調べていただきたいものがちょこちょこ出て来ると思うので、頼りにしておりますので宜しくお願い致します。



「とらぼ」では以下のような業務をお手伝いしてくれる方を随時募集しています

測定スタッフ//測定補助・受付手伝い//公園土壌調査プロジェクトスタッフ//公開測定メンバー

ご自宅やご自宅周辺でできる作業もありますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

メール: [tokolabo2013@gmail.com](mailto:tokolabo2013@gmail.com) 電話: 080-6257-2306



「とらぼ」メーリングリストに登録しませんか？

公開測定のご案内や結果速報、イベント情報を随時発信しています。

登録ご希望の方は、上記メールアドレスに「メーリングリスト登録希望」と書いてお送りください。